

# 特集

## 学校運動部活動と連携するクラブ



### 田布施スポーツクラブ ＜山口県田布施町＞



運動部活動については、少子化による生徒の減少や、顧問となる教師の長時間労働につながるるとともに、競技経験のない教師にとって専門的な指導は多大な負担であり、生徒のニーズに必ずしも応えられていない等の課題があります。

そのため、平成30年3月にスポーツ庁において「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定されました。また、今後の部活動改革の第一歩として、休日の部活動の段階的な地域移行が示されるなど、持続可能な部活動と教師の負担軽減の実現が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

## 1 クラブ概要

### 休部・廃部の危機にあった中学校部活動をクラブが救済

「誰もが、何時でも、どこでもいつまでも」各自の興味・目的に応じてスポーツに親しめるようにするために発足しました。また、週休二日制における子どもたちのスポーツの受け皿としての環境整備のために設立しました。地域に根差したスポーツクラブです。

活動拠点は、田布施町スポーツセンターに集中しており、活動がしやすくなっています。幼児から高齢者までの活動プログラムと、休部・廃部の危機にあった中学校部活動の種目も取り入れています。令和2年9月末の会員数は中学生以下144名、高校生以上187名の331名です。

### 運営13種目のうち水泳、弓道、サッカーの3種目が部活動

現在運営している13種目のうち10種目エンジョイ志向のスポーツ種目で、ストレッチ体操・レクリエーションを行ったり、バドミントンやバウンドテニス等、気軽に実施できるメニューを指導者の下で活動しています。残りの3種目は競技志向の種目で、水泳、弓道、サッカーがあります。これらの種目はいわゆる部活動で、大会に出場することを目指しています。

現在は、年度初めに会員の継続入会や新規入会を募り、会員数400名を目指して頑張っています。しかし、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、活動ができない状態が続き、会員募集もうまくいかない中、継続会員さんのおかげで、どの種目も昨年並みの会員数で活動することができています。エンジョイ志向の種目には高齢者が多く、健康維持のために取り組んでいます。競技志向の種目は、試合が中止になり、目標となるものがなくなっても、再開後は休まず活動しています。



田布施スポーツクラブの案内看板  
13種目とスポーツクラブ主催の水泳教室を紹介しています。第1体育館と第2体育館に掲げています。  
2年前に新調しました。



中学生サッカークラブの活動風景。  
スポーツセンターに集合しゴールを準備。終了時グラウンドの整地をします。年間を通して16:30～の活動になります。

## 2 教育委の要請で部活縮小対象の水泳と弓道を受け入れ

クラブが設立した頃、中学校の生徒数減少に伴い、部活動数縮小の検討がなされ、水泳部と弓道部がその対象となりました。教育委員会から田布施スポーツクラブで部活を受け持ってほしいと依頼されました。当初は体育協会の加盟団体であった水泳部と弓道の弓友会が引き受け、部活動として続けることができるようになり、田布施スポーツクラブ設立後は、クラブの一種目としてスタートしました。

### スポ少卒部生の受け皿としてジュニアサッカーを創設

また、平成25年にスポーツ少年団でサッカーをしていた子どもが中学生になり、田布施でやりたいという声を受け、田布施スポーツクラブ内にジュニアサッカークラブが設立されました。当時ジュニアサッカークラブに入った生徒の親が指導者として関わるようになりました。

以来、水泳、弓道、サッカーは試合に勝つことを目標に活動しています。活動場所は、主に田布施町スポーツセンターで行っていますが、中学校には、それぞれの部活担当教師がおり、連携を取って活動しています。

### 学校側と当クラブが年度末に定期会合 教頭も参加

学校の部活動は、部員数割で部活活動費が分配されていますが、スポーツクラブの3つの種目も部活動と認めてもらっていますので、学校の部活動担当と連絡を取り合って、活動費を器具の購入などに充てています。中体連の大会参加費や旅費については学校側の負担で参加しています。

学校側と田布施スポーツクラブは年度末に定期的な会合を開催しています。学校とスポーツクラブの両方の担当者が一堂に会し、今年度の反省と、来年度の新入生の入部について打ち合わせをしています。学校側からは、教頭先生も参加していただいています。

## 3 経験とスキルを併せ持つ指導者の常時確保が課題

### 競技経験以外に求められる生徒指導上の対応力

学校部活動と連携する上での問題点として一番に挙げられるのが、指導者の問題です。特にサッカーは、競技経験者の若手は仕事を持っているため、部活動の時間帯に指導することが難しいという事情もあり、指導者探しが課題となっています。現在は、世話人の方が何とか探し出して指導をお願いしていますが、いつまで続けられるか先が見えない状況です。また、どの種目の指導者もボランティアでやっていただいております、指導の後継者不足も懸念されています。さらに、指導者は技術があれば誰でもいいというわけにはいきません。生徒指導上の問題にも対応できる人材でないと任せられないからです。

### 外部活動時の事故対応で責任の所在が不明確

部活動の場合、学校で行っているから事故が起こっても養護教諭がいて、責任は校長が取るという環境が整っています。しかし、外部活動であるクラブの場合、もしもの時の対応・責任は誰が担うのか明確となっていない中で活動しています。部活動改革の案の中には、事故が発生した場合は、運営主体や大会の主催者が責任を負うとなっています。現状では当クラブの規約に則って活動しており、責任の所在のところで、課題が残っていると思います。

### 「会員数増」と「会費による自主運営」が今後の目標

また、予算的な裏付けがほとんどない状況で、備品やボールなどの消耗品をどのように購入するのかははっきりしていない点も課題です。現実には各種目で、会費の徴収や中学校から配分されるクラブ活動費をそれに充てて活動しているのが現状です。

現在クラブの運営は、会費と町や他の団体からの補助や、事業への参加費で何とか活動できています。そのため、今後の展望は、会員数を増やし、会費による自主運営ができるようになりたいです。悲しいかな、補助がないと運営できないのが現状です。

(田布施スポーツクラブ 会長 鳥越 昭次)



中学生水泳部と大人の方が一緒に活動している場面。温水プールではないですが、屋根があるので、天候に左右されず活動できます。



中学生弓道クラブの活動風景。町の弓道場で活動しています。この場面は大会的な雰囲気で行った時のものです。指導者も混ざっての活動です。

## クラブ プロフィール

**設立年月日** 平成14年4月14日

**所在地** 山口県熊毛郡田布施町麻郷

**運営** 会員数331名(令和2年10月現在)、予算規模 90万円(令和元年度)

**特徴** 「誰もが、何時でも、どこでもいつまでも」各自の興味・目的に応じてスポーツに親しめるようにするために発足しました。また、週休二日制における子どもたちのスポーツの受け皿としての環境整備のために設立しました。地域に根差したスポーツクラブです。

**連絡先** 〒742-1513 山口県熊毛郡田布施町麻郷1293-11

TEL 0820-52-3832 FAX 0820-52-3832

E-Mail [sportscenter@town.tabuse.yamaguchi.jp](mailto:sportscenter@town.tabuse.yamaguchi.jp)